

しあわせ メッセージ
幸せの手紙 審査総評

・見返りを求めない無償の愛が感じられるもの。また自然な感謝の言葉が綴られているもの。そしてどうしても遠い外国から来て日本で頑張っている人たちの純粋な気持ちに心を動かされてしまう。

・今年の応募作品は、幸せは日常生活の中に沢山あるという内容の応募作が多数あった。家族という時、友人という時、季節（行事）に伴う出来事、そんな生活が大切な1ページであるとあらためて感じて書き綴っている。海外の留学生の作品も多いと思われる、日本に対する夢そして将来に対する希望それが日本に来れたという幸せであるということを書いている。今年の傾向は大きく2つに分かれているように思われる。

・幸せとは、自分自身の中に存在するものであり、感じるものです。物質的、感情的、知的、霊的と様々なレベルの無いようであり、甲乙つけがたいですが、10点を選考致しました。改めて”幸福”について考える機会を与えて下さり、有難うございました。

・今年は母国を離れ自身の「夢の実現」に向けて一生懸命に勉強やアルバイトに励んでいる留学生の家族に向けた手紙や実家を離れてはじめて両親や家族の存在に感謝する手紙が多かった様に思います。あたり前の日常から「幸せ」を感じることを知ったという内容も多かったです。

家族をはじめとし、自身の居場所がある、安心できる（愛する）人がいる。自分の存在価値を感じながら、自分の人生を自分らしく生きていくことこそ「幸福」なのだと応募頂いた手紙から感じました。

・第9回目の幸福の手紙読ませていただきました。ひとり一人の思いがたくさん伝わり“幸せ”とすることが言葉では表現することは大変難しいと思います。皆さんのありのまま書いて下さったことに感謝いたします。幸福は人類共通の願いであり人生の目的とも言えます。

「健・和・富」狂いのない人生を送ることと思います。平和で幸福に暮らせる社会であってほしいと思います。

・学生（多分）の内容が年齢が若いせいか浅い感じが否めない。仕方ない所もあるが厳選しても良いのではないか？

・どの作品も心のこもったものだったと思います。家族、部活動、介護、故郷等々、良い作品がたくさんありましたが、感動や光る言葉を考え審査させて頂きました。もっと沢山の作品を選びたかったですが、また外国人の他人の作品も読む人の心に残るものも多かったと思います。

・今回のテーマは「幸せの思い出」です。応募された皆さんは、今まで生きてきた中で幸せと感じたことを率直に書かれておりました大まかに分類すると家族、留学生、学生時代などの内容でした。特に高校生時代の思い出は、誰しも心に残るものがあると思います。41、45、48、49、69も良かったのですが、その中で選んだが107と114です。顧問の先生や仲間たちと過ごした部活動が目につかびました。

また、留学生だろうと思われる方々については、選出するのに大変苦勞致しました。7,8,9,11も良かったのですが、162は、介護福祉士になった時の喜びが1行目に素直に書かれていました。

人と人が関わる中で、幸せを感じるもの、それが伝わってくるような作品を選びました。